

# Glocal Tenri

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.23 No.2 February 2022

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University



2

## CONTENTS

- ・巻頭言  
ブラジルの天理教 ③  
／永尾 教昭 ..... 1
- ・コンゴ社会から見たアフリカ・ヨーロッパ関係  
試論 (42)  
ドゥニ・サス＝ンゲンズ大統領 ②  
／森 洋明 ..... 2
- ・イスラームから見た世界 (18)  
イスラームにおける水役割  
／澤井 真 ..... 3
- ・伝道と翻訳—受容と変容の“はざま”で— (33)  
仏典翻訳の歴史とその変遷 ⑥  
／成田 道広 ..... 4
- ・音のちから—中国古代の人と音楽 (6)  
音楽と自然の呼応は詩のレトリックか？  
／中 純子 ..... 5
- ・社会福祉からみる現代社会—天理教の社会福祉活  
動に向けて— (新連載)  
「社会福祉」をめぐる一連載のねらい—  
／深谷 弘和 ..... 6
- ・ヴァチカン便り (54)  
肉の罪はそんなに重くない！？  
／山口 英雄 ..... 7
- ・思案・試案・私案  
「碑」の字表記問題再考 (17)  
／八木 三郎 ..... 8
- ・2021 年度公開教学講座要旨：『逸話篇』に学ぶ  
(7)  
第4講：138「物は大切に」  
／澤井 治郎 ..... 9
- ・図書紹介 (129)  
澤井努著『命をどこまで操作してよいか—応  
用倫理学講義—』（慶應義塾大学出版会、2021  
年）  
／金子 昭 ..... 10
- ・おやさと研究所ニュース ..... 11
- 第66回伝道研究会／2021年度イスラーム思  
想研究会／連載執筆のねらいと執筆者紹介／  
2021年度公開教学講座のご案内／2021年度  
「教学と現代」のご案内

## 巻頭言

### ブラジルの天理教 ③

おやさと研究所長 永尾教昭 Noriaki Nagao

筆者は、長年天理教の海外布教に従事した者として、ブラジルにおける大竹忠治郎を始めとする先達たちの努力を論評できるような立場にない。むしろ自らと比較して、その功績を仰ぎ見ているといった方が正しい。しかし、天理教の海外布教を考える上では、感情は横に置いて、客観的に評価することは必要不可欠だろう。

大竹らの懸命な布教によって、1929年頃にはほぼ皆無であったブラジルの天理教の道は、約30年後の1958年には教会数19ヶ所、布教所数27ヶ所を数えるに至った<sup>(1)</sup>（天理教の場合、信者数は把握しにくい<sup>(1)</sup>が、教会数などが教勢をはかる目安になる）。ただ、前号で述べた通り、言語の問題も含めて現地人への布教という課題は解決されておらず、その一つの証左として、これらの拠点長は名前を見る限り、すべて日本人、日系人であることが挙げられる。

ブラジルは一般的に宗教に熱心な国民性と言っていいだろう。カトリックが中心であるが、日本の宗教も多く入っている。『新宗教のブラジル伝道』（おやさと研究所、2018年）の著者、山田政信天理大学教授は、同書の中でそれを宗教の垣塙<sup>かきづぼ</sup>というよりもサラダボールのようであると表現する。つまり、日本における仏教のように、外から入ってきた宗教が現地の宗教あるいは文化などと融合して元来の形を変えて伸びていくのではなく、その形をまったく変えないままでカトリックなどと共存していくということだ。それは、複数の宗教が例えば地域的に棲み分けるのではなく、一人の人間がカトリックも他の宗教も同時に信仰する。同書によれば、実際、毎週ミサに出席するカトリック信者の45.9%が輪廻転生を信じており、カトリックでありながら日本の宗教に入信している人も少なくないという。

そうした中でブラジルでは、天理教は後発の日本の他宗教に比べて信者数が少ない。

同書によれば、生長の家240万人、PL教団60万人、世界救世教10万人に比べて、天理教は3万人である。数字は教団発表とはいえ、日本国内におけるこれらの宗教の教勢と比較しても、天理教の数字がかなり低いと言えるだろう。

当然理由は様々に考えられるが、一つには、上に述べたように天理教の場合、今なお日本人、日系人という限られた枠から出ているからである。そしてその理由は、すでに本稿で数回にわたって述べてきたとおりである。加えて、山田教授も同書の中で、例えばちばへの留学もブラジル天理教団の日系人化を継続させる要因の一つになっていると述べている。天理教の海外布教師たちは子弟をちばで仕込んでもらいたいと願う。筆者もその一人であった。そのことにより、教理の探求のみならず、日本語や日本文化、もっと正確に言えば「日本社会の空気」をも吸収して持って帰っていくことになる。中にはちばで妻となる人を見つけて帰っていくケースもある。そして、帰ってきた彼らが囚らなくも「日本（日系）人コロニー」を形作ってしまうのではない。物理的にどこかの場所に作るのではなく、精神的なコロニーを作ってしまう、そうでない人々を無意識のうちに排除してしまっているということもあると思われる。

今もその状況はあまり変わっておらず、天理教海外部の調査では、現在ブラジルにおける天理教の教会数は90ヶ所、布教所数は約300ヶ所と大幅に増加したが、その内非日系人と思われる教会長は皆無である。布教所長も一割にも満たない。

では、日本の他宗教はどうか。上に挙げたような教団は、それぞれブラジル人信者も多く、現地社会に溶け込んでいっている。

〔註〕

(1) 『天理教ブラジル伝道史』（天理教ブラジル伝道庁、1958年）